

2年生

「算数」

1を分けて

成果
と
課題

<成果>

- ・正方形や長方形だけでなく、方眼紙や紙テープなど様々な具体物を扱うことで、 $1/2$ という大きさを考える際に、大きさだけでなく「数」や「長さ」についても子ども達が着目できた。その視点は、その後の学習でも継続して子どもたちがもつことができた。
- ・たくさんの材料を用意し、自己選択させたことにより、児童の「学びたい」「試してみたい」意欲が高まった。その意欲は本時に限らず、その後の学習でも意欲を高く保ったまま学習を継続することができた。
- ・学習形態を個人選択させたことで、友達と学び合ったり、伝えあう活動が自然とできていた。半分にする方法は1つではないため、友達同士の交流の中で新たな気付きを得ることができ、児童同士の学び合いが深まった。また、自分と同じ考えは児童同士の「共感」につながり、違う考えは「発見」や「尊敬」、「他者理解」につながった。今回は考える材料をたくさん用意したことによって、「違い」を多く生み出すことにつながり、児童の驚きや尊敬、他者理解の機会を多く作ることができた。

<本時の様子>

- 児童が自分で材料を選び、試行錯誤できるように教材ごとに箱を用意して準備した。また、話し合い活動が自然とできるように、グループの形で活動を行った。
- 個人で調べたり、友達と交流したりしながら学習を行うことで、自分で操作していない活動についても知ることができる。そのため、様々な材料を用いた具体的な活動を通して、「半分」の正しい意味に気が付くことができるようにした。
- 各自が操作したものに関して、全体の場で共有できるように操作する手元を写しながら発表を行った。

<課題>

- ・材料をたくさん用意した場合、集団検討で取り上げる内容が多くなってしまい、時間がかかった。逆に少なくしてみた結果、十分に説明の時間は取れたが、子ども達の「発表したい！」意欲を十分に叶えることができなかったように感じた。どこまで材料を用意し、扱っていくのかは学年や学級の実態に応じて、変えていく必要がある。
- ・授業時間内に学習内容の押さえたい所を押さええていくには、活動や考える際の視点の持たせ方に工夫が必要だった。どんな視点をもって活動していくのかを活動前にしっかりと確認することで、学習の深まりや学習のポイントをしっかりと押さえることにつながると考えた。

半分に分けるにはどうやって切れば
いいかな？



どうやって半分にしたのか、み
んなに伝えよう！

どうやって分けたのか、その方法を考えて、
伝えよう。

